



裸足で暮らす人々に靴を



The SAVERS

<問題>

ケニアなどで流行する「スナノミ症」。砂地に生息するスナノミという寄生虫が皮膚の中に入り込んで起こる、足にかゆみや痛みが生じ、適切な治療を行わないと切斷や命に関わる場合もある重大な皮膚感染症だ。熱帯・亜熱帯地域の東・中央アフリカ、インド、中南米といった 27 ヶ国で広く感染がみられ、このうちケニアでは 200 万人の患者がいると推計されている。

スナノミ症は足を清潔にし、靴を履けば防げる病気である。ではなぜ、スナノミ症に感染する人は増え続けるのだろうか。その大きな原因として、ケニアの社会的問題がある。スナノミ症は都市部ではなく、地方の最貧困層がかかる病気であるため、ほとんどの患者は病院に行くことも出来ず、必要な治療を受けることができない。また、足を洗うために必要な水や石鹼、運動靴を買うお金もない。それに加え、ケニアの政治の中心は都市部にあるため、地方で起こるスナノミ症についての政策はなく、ケニア国内でも見過ごされ続けているのだ。

<解決策>

私達は日本からスナノミ症に苦しむ人々を支援するために、まずスナノミ症の存在を沢山のの人に知ってもらうことが大切だと考えた。中でも、高校生の目線から SNS などを通して子供や若者にスナノミ症について広めるために次の 2 つの方法を考案した。

① チラシの配布・掲示

近隣の小中高校でチラシを配布・掲示し、スナノミ症について知ってもらう。チラシの内容は、スナノミ症の症状やケニアでの現状、日本からできる支援の方法を漫画にし、子供でも分かりやすいものにした。

② 動画の制作・SNS での公開

スナノミ症をテーマに動画を制作し、若者に身近な Twitter、TikTok などの SNS を通して多くの人に見てもらう。

また、動画やチラシの制作にあたり、私達自身がスナノミ症について正しい知識を得るために、スナノミ症について支援を行っている団体「日本リザルツ」のオフィスを訪問した。



オフィスでは、スナノミ症の詳しい症状や現地でスナノミ症が見過ごされている現状、日本リザルトの皆様がこれまでに行ってきた活動について学んだ。日本リザルトでは、いらなくなった靴を回収し、ケニアに送る活動をしており、私達が行うスナノミ症を知ってもらう活動の中でも、日本リザルトへの靴の寄付を呼びかけることにした。

<持続可能性>

① コストがほとんどかからない

チラシや動画の制作は全てチームのメンバーが手作業で行うため、ほとんどコストはかからない。よって、コストによってプロジェクトが破綻する可能性は非常に少ないと言える。

② 校内での引き継ぎ

学校内で希望者を集める、委員会や生徒会に引き継ぐなど、このプロジェクトを校内で引き継いでいきたいと考えている。引き継いでいくことで、高校生の目線からスナノミ症について世に広め続けることができ、プロジェクトを持続させることができる。

③ SDGs との関連性



このプロジェクトによってスナノミ症の支援を促すことで、全ての人々の健康、また、スナノミ症の根本的原因である貧困の軽減につながる。また、学生に向けてスナノミ症について知ってもらうことは、世界の現状を知る教育の一環にもなる。また、実際に靴をケニアの人に寄付することでグローバル・パートナーシップを活性化できると考えられる。

<The SAVERS>

両国高校の女子5人組。普段はマイペースでのんびりしているメンバーだが、5人中3人は環境問題についてのプロジェクトを行い、オーストラリアの大会でその成果を発表した経験を持つなど、社会問題や海外の文化などに強く関心を持っている。遠いアフリカで起こるスナノミ症という問題を、高校生の目線から、そして高校生の今だからこそできるプロジェクトを目指している。